



津山工業高等専門学校
校長 磯山武司さん

**若者の地元就職を促進するために
もっと卒業生が活躍できる場を**

磯山校長 教育機関の重要な役割は、学生に対して質の高い教育を提供し、社会で役立つ人材として育成して送り出すことです。

高専の卒業生は、大学卒業者と同程度の知識と技術を身に付けた人材です。就職先は、こうした人材の能力を十分に活かせる仕事との出会いで決まります。卒業生が活躍できる場が地元にもっと増えると思うっています。

学生が地域の企業について理解を深めるための「津山高専技術交流プラザ」の活動や、地域企業での就業体験、経営者による講義などを行っています。企業と連携し、地域が抱える課題に関する卒業研究や特別研究などにも取り組んでいます。

また、平成30年7月に開催された「つやまエリアオープンファクトリー」は、地域企業の見学やさまざまな体験ができる大変良い試みで、たくさんの方が参加しました。

今後も、学生が地域の企業を知る機会を設け、

やすい授業をするため、ICT（情報通信機器）の導入にも取り組んでいます。若者の人材育成では、さまざまな分野で活躍できる人材をバランス良く育てることが大切だと考えています。

また、地域の文化を大切にすることを育てることは、郷土愛を育むことにつながります。自然や文化財は観光資源としても重要で、まちの活性化にとって大きな役割を担います。地域の伝統や文化などを体験できる機会を充実させていきたいです。



じい・ば・子のおうち支縁(上之町)

地域に出た学生は多くの高齢者や子どもたちと接する中で、活きた体験をし、地域を愛する心や、地域の課題を解決していきたいという思いを持ちます。このような教育にも力を入れていきたいです。

また、学生の地元定着に向け、「地域がキャンパス」という標語を掲げ、地元愛の育成に取り組んでいます。その一つが「じい・ば・子のおうち支縁（※1）」です。学生は、町内会に入り、近隣の人たちと交流する中で昔の津山の元気な話を聞きます。活気のあった津山の話を聞いた学生たちには、元気なまちを取り戻したいという気持ちが芽生えます。

また、学生が地域の企業を知る機会を設け、

た普及活動を行う必要があります。

生涯を通じて活躍できる人材の育成

鶴崎学長 人口の急減や産業の衰退など、地方は危機を迎えています。国では、地方に所在する知的財産である高等教育機関を活用し、人材育成や産業の活性化に関する地域の課題を解決する仕組みについて論じられています。

また、人生100年時代といわれ、健康寿命が長くなっています。高等教育機関には、若者の教育だけでなく、生涯を通じて活躍できる人材を育てていくことが求められていると感じています。

専門性が求められる分野では、必要とされる知識や技術が急速に変化しています。高等教育機関は、時代の要請に合わせて必要とされる新しい知識や技術の習得を支援する一端を担うことができると思います。

こういった点から、高等教育機関は個性を活かしながら地域と関わり、行政や産業界と一緒に、人材育成・地域貢献について、今後の方向性を探っていく必要があると考えています。

身に付けた能力を発揮できる地域企業への就職を支援していきたいです。

地域に求められる分野の人材育成

鶴崎学長 美作大学と美作大学短期大学部（以下「美作大学」）に地元から入学した学生の9割が、地域内に就職しています。地域の暮らしを支え、要望が高い分野の人材を育成できている成果だと思えます。将来的な人材育成には、小・中・高校との連携も必要です。福祉・子ども・食に加え、地域から要望が多い分野について、新しい学科の設置を検討していかなければならないと感じています。

また、学生が地域の企業を知る機会を設け、



つやまエリアオープンファクトリー

地域の企業を知ることができている機会を

谷口市長 人材は地域を支える大切な基盤で、人材なくして津山の未来は無いと思っています。子どもたちが夢や希望を持ち、自分自身の力で人生を切り拓いていけるよう促すことが、大人の役目です。子どもたちの教育は、学校と家庭と地域が一体となり、社会全体で支えていく必要があります。

小・中学校では、基礎学力の向上のため、「落ち着いて学習に取り組める環境を整える」「分かる授業をする」という二点に力を入れています。

教師業務アシスト員や部活動指導員の配置など人的体制の充実を図り、学習環境の整備を進めています。また、子どもたちの興味を引き、分かり



ICTを活用した小学校の授業

また、平成30年から「ジュニアドクター育成塾」という事業を始めました。科学技術への興味や高い意欲、突出した能力を持つ小・中学生を発掘し、理科、数学、情報分野の学習を通じて、能力を伸ばしていくこうとする取り組みです。目標は、中学校卒業時点で、成果を学術論文として発表できる程度の才能に育成することです。

科学技術を地域の文化として捉え、地域全体で才能の発掘や育成に取り組み、組織の垣根を越え

また、平成30年から「ジュニアドクター育成塾」という事業を始めました。科学技術への興味や高い意欲、突出した能力を持つ小・中学生を発掘し、理科、数学、情報分野の学習を通じて、能力を伸ばしていくこうとする取り組みです。目標は、中学校卒業時点で、成果を学術論文として発表できる程度の才能に育成することです。

科学技術を地域の文化として捉え、地域全体で才能の発掘や育成に取り組み、組織の垣根を越え



美作大学・美作大学短期大学部
学長 鶴崎実さん



津山市長 谷口圭三

**教育、人材育成、文化の振興に
必要なこと**

人材なくして津山の未来は無い

現在、科学実験教室など、小・中学生を対象にした出前授業を行っています。子どもたちが自ら考え、学ぶ体験をすることで問題を解決する資質や能力を育む支援をしています。津山まちなかカレッジなど、市民講座の開催にも協力しています。これらの活動は、高専で学ぶ学生だけでなく、地域の教育水準の向上に向けた取り組みとして、定着しつつあると感じています。

また、平成30年から「ジュニアドクター育成塾」という事業を始めました。科学技術への興味や高い意欲、突出した能力を持つ小・中学生を発掘し、理科、数学、情報分野の学習を通じて、能力を伸ばしていくこうとする取り組みです。目標は、中学校卒業時点で、成果を学術論文として発表できる程度の才能に育成することです。

科学技術を地域の文化として捉え、地域全体で才能の発掘や育成に取り組み、組織の垣根を越え

また、平成30年から「ジュニアドクター育成塾」という事業を始めました。科学技術への興味や高い意欲、突出した能力を持つ小・中学生を発掘し、理科、数学、情報分野の学習を通じて、能力を伸ばしていくこうとする取り組みです。目標は、中学校卒業時点で、成果を学術論文として発表できる程度の才能に育成することです。

科学技術を地域の文化として捉え、地域全体で才能の発掘や育成に取り組み、組織の垣根を越え